

1. 大河津分水路とその河口に広がる砂浜の変遷

(長岡市寺泊野積～燕市地藏堂付近)

(かつて) 低湿地の越後平野 信濃川やその支流の洪水災害頻繁。

1922(大正11)年、信濃川を日本海へつなぐ大河津分水路完成。

分水路幅が次第に狭くなる(勾配が急)のは山地部での掘削量考慮のため。

分水路による上流からの土砂運搬・堆積 河口で砂浜(陸地)が拡大。

1970年代以後は河口付近の砂浜拡大が停止。

